

口腔健康科学入門

Introduction to Oral Health Science

キーワード

- ① 口腔科学
- ② 口腔衛生学
- ③ 歯科疾患の予防戦略
- ④ プラークコントロール
- ⑤ 歯科疾患の疫学指標

授業概要

口腔の健康が全身の健康に大きく影響していることから、歯科口腔保健の推進に関する法律で「口腔の健康は、国民が健康で質の高い生活を営む上で基礎的かつ重要な役割をもつ」とされた。そこで、患者および住民が日常的に歯科疾患の予防に向けた取組みを支援できるように、本講義では、最新の情報をもとに「健康とは何か」、「歯科疾患の発生要因と予防」について学び、口腔の健康増進の実践に必要な口腔保健の基礎を理解し、有効な歯科疾患の予防とコントロールの基礎を修得することを目的として開講する。

授業科目の学修目標

人々の口腔の健康を増進するための保健行動は自己実現につながる。本科目の目的は、口腔の健康増進を実践するために必要な口腔保健の基礎的な科学を理解することである。齲蝕と歯周病の予防とコントロールに有効な方法を修得することを到達目標とする。

授業計画

- ① 口腔保健学の概念と健康の定義、生涯歯科保健のための制度、医学研究手法を解説する。6コマ（うち4コマは研究倫理） 荒川浩久
- ② 齲蝕、歯周病、歯列不正、その他の歯科疾患の発生要因を解説する。8コマ 木本一成
- ③ プラークコントロールの概念と歯の沈着物、唾液と口腔の機能の基礎を解説する。8コマ 川村和章
- ④ 歯科疾患における疫学指標の意味と算出方法を解説する。8コマ 宋 文群

教科書および参考書

Primary Preventive Dentistry, Sixth edition, Pearson prentice Hall, New Jersey: Norman O. H., Franklin G

履修に必要な予備知識や技能、および一般的な注意

学部学生時の口腔衛生学に関する知識、ならびに歯科疾患のリスク評価と予防手段に関する技能が必要である。英語の論文を翻訳するので、英語のトレーニングを怠らないことが求められる。

大学院生が達成すべき行動目標

- ① 医学研究手法と研究倫理について説明し実践できる。
- ② 口腔疾患の発生要因を説明し、関連論文の内容を理解できる。
- ③ 歯磨剤と洗口剤などのプラークコントロールについて説明できる。
- ④ 歯科疾患における疫学指標を説明し計算できる。

評価

試験	小テスト	レポート	成果発表	ポートフォリオ	口頭試問	その他
0%	25%	30%	30%	0%	15%	0%

評価の要点

- ・5点満点の小テストを5回実施する。 $5\% \times 5 = 25\%$
- ・与えられたテーマの文献レビューについてレポートにまとめ、プレゼンテーションする。 $30\% + 30\% = 60\%$
- ・口頭試問は、口腔保健の現状と課題について議論できるかどうかを評価する。1回15%

理想的な達成レベルの目安

口腔健康科学入門の理想的な達成レベルは、総計として80%以上とする。研究倫理については100%とする。